

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ 合同研究会
第41回 議事録

1 日 時 平成24年11月17日(土) 11:00~12:40

2 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)

3 参加者 6名

新規参加者 1名

西川 由実子 奈良文化女子短期大学附属幼稚園

本学学生 1名

本学事務局 2名

4 内 容

(1) 資料の確認 解説(善野代表)

就学までに子に身につけさせたいのは「あいさつ」「根気」「聞く力」

(2012年10月25日 朝日新聞:東大 秋田喜代美教授)

○母親が子に身につけてほしいと考えている項目

あいさつ・・・生活自立

意欲・・・精神的自立

人の話を最後まで聞ける・・・生活自立・学習自立

○小学1年生の母親が身につけておいたほうがよかったと思う生活習慣

あいさつ

あきらめずに挑戦できる

人の話が聞ける

大半の母親はこれらの力がついていると回答

→親の関わり、働きかけが子どもの能力に影響を与えることがわかった

(2) 「生きる力を培う子どもの育成」(善野代表によるミニ講演)

○ キーワード「 つなぐ つながる 」

①交流 家庭教育での働きかけ、 幼小中高の交流、高齢者や養護学校間の連携や交流

②福井県の事例・・・18年教育 自治体で育てる

③交流をもつ意味

◎交流前:交流先の目的と幼児教育側の目的、意義のすり合わせ

◎交流後:評価、振り返り

→例:小学校での交流を模倣する幼児の活動、「環境構成、条件整備」

1. 環境、素材を年齢に応じて工夫、つなげていく

2. 試行錯誤が繰り返される材料の選択⇒根気よく続ける力

◎交流後の意欲の継続:教師の言葉がけ、働きかけ、教材教具の工夫

④「保育技術検定」にある育てたい力

子ども理解・保育に関する知識と技術・学習意欲・コミュニケーション力

創造力・ゆたかな心

保育に関するスキルが高まることと共に、必要なことはコミュニケーション力

○育ちと学びをつなぐ教育課程の改善 単元開発 交流はあつて連携なしを解決する

○互惠性と継続性 年間計画に合同授業を位置づける

○双方の目標の明確化 PDCAに基づく評価と振り返り

○秋の活動例から

秋の活動から「一日体験入学」への発展

例年の秋の活動案の修正を幼小で交換する

「どんぐり迷路」あそびから、「数への関心」「言葉の力」へ

T→C C→T あそびのルールづくりを子どもに問いかけて説明する力

(3) ワークショップ

<意見交換>

①現状と課題

- ・受け入れているだけ。
- ・中学校側に園からの目的を話す、教師間で考え方の相違がある。
- ・中学校で、教師から生徒に目的などがきちんと話されていないため、幼稚園で幼稚園教諭に言われるだけになっている。
- ・教師間の関わりが少ない。

②改善策

- ・ねらいを明確にして次につなげていく。
- ・園側からは中学生が園に来て、ただ「楽しい」ではなく、何かをしてもらうことを働きかけていきたい。
- ・お互いに目的、意義の共通理解が大切
- ・小学校から園へ子どもたちが来る交流では、子どもたちだけでなく教師にも関わってもらう。
- ・「数への関心」
学びの基礎力…(知・徳・体)
○『「一日体験入学」幼小合同授業構造図(2010 善野八千子作成)』を参考に
 - ・交流を活動だけで終わらせない → 目的、評価を双方で記載して確認する
 - ・構造図の活用

<前回の振り返りから>

今まで実施された一日体験入学についてそれぞれ幼稚園教育側、小学校教育側からの良かった点、残念だった点について振り返った。それぞれの点を考慮し、次回から指導案を作成していく。

<参加学生からの質問>

Q. 発表会準備や新しい活動に入る前にどのような言葉がけをするのか。

- A. ・子どもたちへの問いかけ・・・子ども主体となるよう、自らに見通しを持たせる、イメージを膨らませる
- ・伝える・・・導入において、意欲の喚起、期待感の高揚
「ワクワク感」、「やってみたい」、どうやったら挑戦したいと思うかを考えさせる。
 - ・一方的な説明や注意で緊張させるのではなく、意欲、興味を持たせる事が重要

【学生の感想】

○子どもたちと一緒に何かをする時は、自分も楽しみながら、時には子どもに尋ねて考えてさせることも必要だということを知りました。「しなければならない」という思いで物事を見ていた自分に気が付きました。子どもが自分から楽しみ、考えることが出来るようにすることが大切だということをお忘れなくしたいと思います。

5 次回の予定

平成24年12月15日(土) 11:00~12:30

*毎月定例は、第3土曜11:00~12:30